

予 算 要 求 資 料

令和6年度3月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名 高額研究開発機器等整備事業費（国補正）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

農政部 農政課 農業研究推進係 電話番号：058-272-1111(内4027)

E-mail：c11411@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 54,846 千円 （現計予算額： 0 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	54,846	0	0	0	0	0	0	0	54,846
決定額									

2 要 求 内 容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

高度化する研究ニーズに対応し、新技術等の開発を行うためには、研究開発に不可欠な施設を計画的に更新し、最新の施設整備を行う必要がある。
農政部試験研究機関が所有している施設は、耐用年数が相当程度超過し、老朽化が進んでいることから、今後の研究への影響が懸念される。

（2）事業内容

- ・アーチ型鉄骨ハウス（中農研、新規54,846千円）の導入
高温対策研究温室として利用

（3）県負担・補助率の考え方

- ・県1/2（新しい地方経済・生活環境創生交付金活用）

（4）類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
工事委託料	4,813	施設的设计監理業務委託
工事請負費	50,033	施設の建築工事
合計	54,846	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業・農村基本計画」(R3～R7)では4つの柱「ぎふ農業・農村を支える人材育成」、「安心して身近な『ぎふの食』づくり」、「ぎふ農畜水産物のブランド展開」、「地域資源を活かした農村づくり」を定めている。これに基づく重点施策に「ブランド展開を支える新品目の創出と生産流通技術の開発」が位置付けられている。

(2) 後年度の財政負担

維持管理に必要な経費は、後年度も財政負担する必要がある。

(3) 事業主体及びその妥当性

県の研究所であることから、県が事業主体となることが妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

中山間農業研究所において、中山間地域のコメや園芸品目の高温対策研究施設を整備する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R6)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
研究施設の整備	0	0	0	0	1	

○指標を設定することができない場合の理由

--

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	
令和4年度	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和5年度	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価)	
・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価)	
・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 耐用年数が相当程度超過した施設等は、必要性、緊急性の高いものから、計画的に更新・新規導入していく必要がある。
--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 高度化する研究ニーズに対応し、新技術等の開発を行うためには、研究開発に不可欠な施設を更新し、最新の施設整備を行う必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	